

柳 地 第 626 号
平成20年10月17日

国土交通省道路局長 殿

福島県河沼郡柳津町長 井 関 庄 一



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け、国道企第37号で依頼のありましたこのことについて別紙のとおり提出いたします。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

福島県 柳津町

1. 幹線道路(国道等)の整備はもちろんであるが、住民の生活に密着した生活道路を重点的に整備を要する。特に「主要地方道」、「県道」において集落内の未改良区間について早急に整備を要する。
併せて、雪崩、落石等について、住民の安全確保のために整備を急ぐべきである。
これらの集落内道路、危険箇所等については、多大な経費を要することから、経費の割りに改良延長が確保できなために、着手できないところが多い。
通行台数が少なくても、地域住民にとっては唯一の生活道路の箇所もあり、計画的に整備を図るべきと考えます。
2. 地域住民は、国・県道、市町村道に加え、農道、林道も生活道路として利用しており、住民側から見れば、これらの道路管理者の区分は明確となっていないところである。これらの道路を一元管理(市町村道と農道、林道を一元管理する等)すれば、より効率化が図れると思われる。
3. 都市圏における道路整備率は高率な数値となっているが、地方、特に過疎地域においては、「車が通行できない国道、主要地方道等」がたくさんある。これらは不要な道路ではなく、整備、開通するのを今か、今かと心待ちにしているところである。これらの地域においては一日あたりの通行台数が少ないために、工事の着手が先送りされている箇所も多い。
通行台数は少なくても、車の大きさは同じであり、車の性能も同じである。上下2車線の道路でなくとも、現在進められている1.5車線計画の推進をお願いしたい。

②—1 地域の現状と抱える課題

福島県 柳津町

○現状

当町は、福島県の西部に位置し、豊かな森林と美しい田畑が広がる農林業を基幹産業とした農山村地域である。

近年、高齢化・過疎化が進行(65歳以上の高齢者が36.6%、過去5年間の人口が7.0%減少)しており、地域活性化が求められている。

このことから、「利便性の向上を図る主要道路の整備」として、冬期間の生活道路の確保並びに病院までのアクセス改善が急務となっている。

○課題

当町は、山地地形の中に集落が散在する地勢であり、道路改良を行うにあたっては起伏が激しく生活道路の改良・舗装を実施するにも費用の増大を招き、投資した額がそのまま改良率・舗装率の向上につながらないのが実情である。

近年、基幹産業の衰退等による人口の流出が進行している。このため、道路改良計画区間に地区の共有地が存在している場合、地権者が既に死亡してからも登記を移していないケースが数多くあり、相続登記が困難となり、用地買収ができない。用地取得ができないので道路改良も進捗しない。

町役場までの所要時間が1時間近くを要する地区がある。このために、道路・交通・通信等の社会資本整備を積極的、かつ早急に整備し、地域格差を是正しなければならない。

携帯電話サービス・光通信サービスの未供用区間においては、早期供用開始が望まれているところである。

②—2 地域の目指すべき将来像

福島県 柳津町

1. 町と町民の生活の都市化を進め、多様性と独創性を生み出し、また、古来より蓄積された歴史の基に本町の姿があり、将来が展望されるべきものであることから、以上の目的達成は、今日までの蓄積を切り捨てるのではなく、歴史や自然等本町の持つ資源を守り育てる過程で進め、さらにそのことによって他にない本町独自の魅力を創造していくことが必要である。
2. 人口の定着を促進し、町民一人ひとりが真に本町での生活を望み、安心して生活ができる町づくりを積極的に推進していくことが必要である。
道路網の整備は、各道路の位置づけに対応し、子供・高齢者等社会的弱者に優しい道づくり、自然環境・景観保全対策に配慮した整備を進める。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

福島県 柳津町

○ 重点事項	○ 代表事例	○ 期待する効果や評価等	○ その他